

2010年

JASH スタディー発表

AMASCテーマ

Fight Poverty ～Share, Care, Love～

「同窓会のコミュニケーションの貧困」  
について

グループ①

(加藤邦子、大橋美可恵、芦崎真実、天海祐子、池田実也、斉藤由美、  
永井真美子、橋本晴子)

## 2010年 JASH スタディーグループ 発表

### グループ① 「同窓会のコミュニケーションの貧困」

2010年2月23日

#### 1. はじめに

私どもはAMASCの今期のテーマである「Fight Poverty Share, Care, Love」を「同窓会におけるコミュニケーションの貧困」という視点から捉えて見ようと考え、模索してまいりました。

100年前、聖心会の修道女の方々が初めて日本の土をお踏みになって以来、数々の試練を乗り越えられ、現在多くの卒業生を送り出して頂くまでになりました。しかしながら、同窓生の増大は、皮肉にも私たちが在校中シスター方から絶えずお聞きしていた「聖心ファミリー」という言葉の意味を希薄なものにする一因になっているとも考えられます。また、私たちの同窓会の特性として、姉妹校が地方に点在し、各々の同窓会内だけで情報が完結しているという点も同窓会員相互のコミュニケーションを取りにくくしている要因に挙げられるかも知れません。40歳代以下の卒業生の中には各同窓会がどのような活動をしているかご存じない方が多く、ご自分達の所属同窓会、JASH, AMASCの違いを知らない方もたくさんいらっしゃり、在校生にいたっては、その多くが同窓会の活動についての知識や興味を持っていないのが現状です。また、卒業時に同窓会費の意味を理解されずに納入を拒否される御父兄が毎年数名現れる傾向にあることなど、これは私どもの時代にはあり得なかった事で近年目立った変化です。そしてこれらは、まさに、「同窓会のコミュニケーションの貧困」から来る問題と言えるのではないのでしょうか。

#### 2. JASH ホームページの意義

これらの現状を踏まえ、同窓会活動を存続させ、「聖心ファミリー」という言葉を死語にさせず、その精神を受け継いでいくためにはまず、全ての同窓生が様々な情報を共有し、聖心生は卒業してもファミリーとして繋がっていることを認識してもらうことが必要ではないかと考えました。そのための具体的な手段の一つとして、ホームページ（以下HPと表記）の作成が現代においては一番有効な手段ではないかという結論に達しました。特に活字よりインターネットに親しんでいる若い世代にアピールするには効果的であると考えました。同窓会の中には既にHPを作成されている所もありますが、私達が考えたHPと

は個々の同窓会の情報で完結してしまうのではなく、全ての同窓会員が情報を共有し、同窓会組織を包括的に把握することによって「聖心ファミリー」という言葉の意味を感覚的に捉える事ができるものでなければならないという事です。

その様なHPを実現するためには、各同窓会と定期的に会合を持ち情報交換をしておられるJASHでHPを作成していただく事が一番有効ではないかと考えました。JASH HPではJASHの活動の紹介だけでなく、各同窓会のHPとのリンクや活動の紹介、また聖心会のHPともリンクさせることによりシスター方の活動や近況などの紹介も可能になります。AMASC HPにもリンクさせ世界中に広がっている活動の存在が理解できると思います。また各学校のHPとリンクすることによって、在校生はもとより、これから入学を希望する方々にも世界に広がる同窓会活動を紹介でき、聖心の校風への理解をより深めていただき、卒業しても尚、その絆は繋がっていることを感じていただきたいと思います。

このようにJASH HP作成の意義は、各同窓会の枠を超え全ての同窓生が共通の情報を瞬時に得ることができるということと、各姉妹校、聖心会、AMASC、JASH、各同窓会が一つに繋がり、アクセスした人が自然と「聖心ファミリー」としての認識を得られ、「聖心スピリット」を継承していく上で有効な一つの手段になり得ると同時に、「同窓会のコミュニケーションの貧困」の解決策の一つでもあると考えました。

### 3. JASH ホームページ作成と活用

私達、スタディーグループ①はこの考えのもと、JASHの役員の方々に御相談申し上げ、検討していただき、2009年春には「JASH HPを考える会」を立ち上げて頂き参加する事になりました。この会ではHPを立ち上げるまでの具体的な方法や掲載する内容、セキュリティーの問題、管理、費用の問題などをJASHの役員の方々と共に検討し、2009年7月に行われたJASH理事会において、作成した資料とサンプルHPを理事の皆様に見て頂きながらプレゼンテーションをし、HP作成の承認を得ました。その結果2009年11月にはJASH HPを完成させアップすることができました。また、学校法人や聖心会からもリンクの許可をいただき、現在、全ての姉妹校HPからJASH HPにアクセスすることができます。

今後は様々なイベントのお知らせはもとより、いろいろな活動をしているJASH各委員会の報告、またそれに伴う人材の募集などができるようになればと考えております。また、聖心会のHPとリンクさせて頂いている事で、お懐

かしいシスター方の御活躍の近況を拝察することができると同時に、そこにはご高齢になられたお姿も否応なく現実として私達の眼にとまってしまいます。例えば、今後HPを活用し、同窓生や修道院の御意見などを伺いながら、何かお手伝いできないか考えていく事も可能になるかもしれません。このように、将来的にもJASH HPはいろいろな面で発展させる事ができるツールとなると考えられます。

#### 4. 今後の課題

最後にJASH HPを実現させるまでの過程において、大きな問題を全ての聖心の組織が抱えていることを実感しました。それは、聖心の各組織のマークをHPに使用させて頂こうとした時、今までいろいろなところで載せられていたマークは細部が様々でどれが正しいのか判断がつかず、そのことを学校法人、各学校、聖心会などのどこに確認したらよいのか、またそれらの使用許可はどこで頂くのか等、どなたにお聞きしてもわからず、非常に困惑したことがありました。またJASH理事会でのプレゼンテーションでも、同じような質問が理事の方の中から出ていましたが、やはり不明のままでした。これは私達が普段見慣れたマークの帰属があやふやで、管理責任の所在が明確になっていないということであり、このことはつきつめると、誰でも勝手に使用できるということに繋がる恐れがあるのではないかと考えます。また今現在使用されている様々な名称などにも同じ事がいえると思います。このように、マークや名称の帰属先を明確にしていくことは大変重要な意味を持つ事であり、今後の課題として全ての聖心の組織が協力して考えなければならない問題であると考えます。そしてこの課題にJASH HPでの情報共有を基盤に「聖心ファミリー」として向き合うことで、より大きな「同窓会のコミュニケーションの貧困に対するFight」となると考えます。

JASH HP アドレス

Hhttp://www.jash316.com

以 上